

2015(平成27)年度事業報告書

社会福祉法人山鳩会 幼児室ポッポ

1. 理念・方針

(1) 法人理念

① 障がいがある人に・・・

自分の持っている力を発揮しながら、普通の生活を営み、自らが社会に価値のあるものである事に気づき、自己実現していけるよう支援する。

② 障がいがある人の家族に・・・

障がいがある人への思いを受け止め、それを実現していく。

③ 援助者には・・・

障がいがある人と共に歩みつつ、自己実現を図るために必要なサービスを提供し、常に向上的である人材に育てる。

④ 地域の方に・・・

共に生きていく環境を実現するために、お互いにメリットのある関わりを築いていく。

(2) 中期目標（平成26年度～平成28年度）

大人との信頼関係を築き、友だちへの興味を育てる。家族の心の支えとなる。

(3) 基本方針

① 人格の基盤となる「人との基本的信頼感」を築くため、子どもたち一人ひとりをしっかりと受け止め、支えていく。

・詳細な保育の記録による保育者自身の振り返り・スーパーバイザーを招いてのケース会議・アセスメント会議や職員会議により、子どもたち一人ひとりを受け止め、支えていった。

② 子どもたちがのびのびと自分らしくふるまえるよう、職員の在り方や環境整備を考えて保育にあたる。

一人ひとりに即した遊びを見つけ、遊びを通して自己表現できるよう支援する。

・安心して遊べるように、自分らしくいられるように2つのグループに分けて保育場所を考えた。

③ 感性豊かに心身の発達を促すことのできるよう、自然からのエネルギーをたくさん体感できる保育内容を行う。

・年間ポッポ通して全生園、2学期は八国山、3学期は狭山公園で園外保育を行った。自然の中での子どもたちの表情は生き生きし、遊びに集中した。1学期半ばから他の子と関わる姿が多く見られ、成長を感じるが多かった。

④ 身の回りのことを自分でしようとする気持ちを育てる支援を行う。

・担当者との関係がついてから、身の回りのことを自分でしようとする気持ちを育てる支援を行った。

⑤ 社会の変化に伴い、孤立を深める母親や家庭の多様なニーズを敏感にとらえ、各家庭にそった支援を行う。

・個人面談・連絡ノートや送迎時の会話により、各家庭にそった支援を行った。

⑥ 行事を通して子どもたちの発達を促すと同時に、母親に対しても子育てを知る機会となる場を提供する。

・母子通園・親子遠足・親子焼きそば会・運動会・保護者会・個人面談等で、母親が担当者と話したり子どもと担当者との関わりや表情を見てもらった。

2. 施設概要

- (1)施設種別 指定障害児通所支援事業（児童発達支援事業）
(2)利用定員 10名（平成27年度利用者数15名）
(3)開園年月 昭和61年4月1日（開所指定年月日 平成25年4月1日）
(4)施設の規模 敷地面積 685.07㎡
延床面積 36.85㎡
建物構造 鉄筋コンクリート地上2階建て(1階の一部)
賃貸区分 (土地)市所有 (建物)所有

3. 職員構成

(1)雇用契約あり

職 種	配置人数
管理者	1名
サービス管理責任者	1名(兼務)
保育士 (常勤職員)	2名
児童指導員 (常勤職員)	0名
調理員・栄養士 (常勤職員)	0名
事務員 (常勤職員)	0名
保育士 (非常勤)	2名
児童指導員 (非常勤)	2名
指導員 (非常勤)	3名
調理員 (非常勤)	0名(兼務)
事務員 (非常勤)	0名
看護師 (非常勤)	0名
理学療法士 (非常勤)	0名
作業療法士 (非常勤)	0名
合 計	10名

(2)嘱託

小児神経科医師 (2回/年)	1名
看護師 (0回/年)	0名
理学療法士 (0回/年)	0名
作業療法士 (0回/年)	0名
リラクゼーション (0回/月)	0名
ケーススタディー講師 (10回/年)	1名
リトミック講師 (3回/年)	1名
合 計	3名

4. 利用者状況

(1) 障害程度(28年3月末)

	1度	2度(A)	3度(B)	4度(C)	未取得	合計
愛の手帳	0名	3名	4名	2名	6名	15名
身障手帳	0名	0名	0名	0名	0名	0名
精神保健手帳	0名	0名	0名	0名	0名	0名

(2) 年齢構成 (平均年齢 3.5歳児)

	新入園児		継続児		計
	男	女	男	女	
1歳児	0	0	0	0	0
2歳児	2	0	0	0	2
3歳児	0	0→1	1	0	1→2
4歳児	1	1	5→4	1	8→7
5歳児	0	0	3	1	4
計	3	1→2	9→8	2	15

(3) 担当福祉事務所

東村山市				合計
15名				15名

(4) 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者	15	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	16
退所者	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
月末数	15	15	15	14	14	15	15	15	15	15	15	15	178
延べ日数	210	180	220	220	180	180	210	190	180	190	170	180	2,310
延べ人数	190	175	202	208	162	169	204	187	186	189	172	195	2239
出席率(%)	90.4	97.2	91.8	94.5	90.0	94.0	97.1	98.4	103.3	99.4	101.1	108.3	96.9

(5) 卒園児の進路先

5歳児(4名)清瀬特別支援学校

2歳児(1名)私立幼稚園に入園し、28年度はポツポで個別指導と相談を利用する。

5. 日課

(1) 月～金曜日

時 間	内 容
9:00～10:00	個別指導
9:50～10:30	自由遊び
10:30～12:20	集まり・園外保育
12:20～13:30	手洗い・昼食・自由遊び
13:30～14:00	おやつ、紙芝居等
14:00～16:00	個人面談&個別指導

6. 重点目標

(1) 一人ひとりの障がいや心身の特性に応じた支援を行う。

①一人ひとりを大切にする支援を行う。

療育の視点から毎日の細かな振り返りをし、柔軟に対応策を考えて、職員間で共有する。共有の仕方を工夫する。

- ・担当の保育者は、毎日自分の関わり方を振り返るために記録を書いた。
- ・常にリスク回避を想定して保育を考え、職員間で共有した。
- ・週1～2回の会議で子どもの様子を話し合い、職員間で共有した。
- ・スーパーバイザーの先生に年10回保育を見学してもらい、8回ケース会議を開いて研修を行った。

③他機関とも密に連携をとり、情報を得て日々の支援に生かす。

- ・幼児相談室・嘱託医の助言を受けながら保育を行った。
- ・ケア担の交流実習においてあゆみの家・保育園・教育支援課と情報交換をした。

(2) 市内の保育園の受け入れ体制の変化に伴うポッポの新たな役割への対応を行う。

23年度より障がい児枠の対象児を4歳・5歳から0歳～5歳に広げた。そのため保育園の在籍児が優先的に数年間枠を利用することになり、ポッポの在籍児もそうでない子も保育園に入りにくくなった。そして、ポッポに紹介される子が増えても受け入れ可能な人数は少なくなっている。

また、両親が常勤職であることが入園最低条件になったためポッポから入園することは極めて困難になった。

反面、ポッポに過敏なタイプの子が多く、親が継続を選択するケースが増えていることも保育園に行く子が減った一因である。

① 子どもの状態と家庭状況を考えて必要な支援を行う。

27年度は4歳児・5歳児が全体の8割を占めている。体力がついてきた4歳児・5歳児を週4日家庭で保育するには母親の負担が大きい。保育園の一時保育を利用する子どもに対しては連携をとって支援に生かす。一時保育を利用できない過敏な子には4日目を個別指導の日とする。また、ポッポでの保育がもう一日必要な子どもには週4日の保育を行う。

27年度は継続児が11名・卒園児が3名のため、利用者数を1名増やして15名にする。

- ・一時保育を利用する子どもについては、ケア担の交流実習及びケア担当者連絡会議において意見交換した。
- ・家庭の事情で週3日の保育では母親の負担が大きい子ども2名に、保育を1日増やし週4日の保育を行った。
- ・保育園の一時保育を利用できない過敏な子3名に、週3日の保育に加えて週1回の個別指導を行った。

② 必要な支援を行うため運営規程の営業時間をサービス可能な時間として、現在の9:50～14:00を9:00～16:00に変更する。

- ・開所時間を延長した。
- ・14:00～16:00、進路面談や学期末毎に個人面談&個別指導を行った。

- ③ 必要な支援を行うための保育者を配置し、予算を計上する。
- ・予算は計上したが、保育者が緊急に休んだ日の代替が充てられない日は、安全第一の保育を行った。予備の保育者は必要だと思う。
- ④ 一人ひとりを重んじながら小集団としての状態を把握し、園外保育の場所やグループ分けなど柔軟に保育の方法を考える。

↓

☆27年度の子どもの様子

- ① 継続児（3年目の子5名、2年目の子5名）が多い。
- ・全体的に就学に近い4・5歳児が11名と多く、7割をしめる。
 - ・集団を経験した子（幼稚園年少1年・保育園の一時保育・幼稚園年少4ヶ月）が4名いる。

↓

そのため、

- ・例年より早く他の子と一つの遊びを楽しむ場面が見られた。これまでは2学期後半だったが、今年度は1学期半ばから。
- ・他の子や保育者への意識を持ち、まねたり、関わりをもって遊ぶようになる。

②反面、

- ・過敏な子が多く、その子が置かれている状況によって刺激を受けやすくなり、他の子に手が出てしまう。
 - ・手を出された子は、その子を怖がり同じ場にいられなくなる。
 - ・手が出てしまう子がいなくても、ポップの部屋に入れなくなった子もいる。
- 手を出す子も出される子も、追い込まれた状況にあるのでどちらも守る。

◎特に手を出す子は過敏で手を出す理由が必ずある。

↓

そのため、園外保育のグループを2つに分け、場所を変えて保育した。

- ・八国山・狭山公園など自然の中で保育することにより過敏さが減ったが、知らない子がいる時にはそれが刺激になって手が出てしまう。どこに行っても配慮が必要。
- ③ 社会的には困った遊び（自動ドアの開閉・エレベーターのボタン押し）へのこだわりがある子

↓

建物の中には入らず見るだけを原則として、

1年目はその子に寄り添い見守ることにより、大人との関係をつける糸口になった。

2年目は、こだわる時間が短くなり他の遊びに移るようになった。

しかし、見ているだけで注意されたことによりその場所に行かないという選択をした。

↓

- ・園外保育のグループを2つに分け、場所を変えて保育した。
- ・八国山・狭山公園など自然の中で保育することにより、こだわりから解放された。
- ・担当者が“子どもの物へのこだわりにつき合う”ことによって、子どもは“自分を受け入れてもらえた”と感じ、物から担当者へと興味移った。

↓

目が合うことが増える・表情で喜びを伝える。

担当者は心から可愛いと思いながら関わり、この気持ちが子どもに伝わり“人っていないなあ” “この人のそばにいたい！”という気持ちが子どもに芽生える。

これは、一対一の丁寧な関わりの中で初めて育つ感情である。

ポッポの基本方針 ① 人格の基盤となる「人との基本的信頼感」を築くため、子どもたち一人ひとりをしっかりと受け止め、支えていく。そのために感性と思いやりを備えた保育者が、十分な人数必要である。

(3) 卒園児の保護者の会を開き、情報交換の場を提供する。

卒園後、特に普通学級に行った子どもや親の悩みは深い。スーパーバイザーにも来てもらい、周りに理解してもらえるような支援の方法を共に考え、ポッポの保育にも今後生かしていく。

- ・ 11月4日社会福祉センターにて特別支援学校や支援学級に行っていない小学校5年生の母親4名・高校生と成人の母親2名・スーパーバイザーとして前施設長を招いて体験談を聞いた。在園中に母親に伝えたかった「子どもの気持ちを受け止め、ありのままを認める」というポッポの基本的な考え方を忘れないで子育てをされ、自己肯定感を持ったお子さんに育てられていた。また、一番つらかった幼児期に「頑張ってるね！」ではなく「今のお母さんでいいのよ。」と励まされたことがどんなに救いになったかわからない。という貴重な感想が出た。子どもも母親も気持ちを受け止め寄り添うことの大切さを再確認した。

(4) 年間行事

*親の会との合同行事

4月	保育開始(1) 母子通園(2~9) 新入園児保護者会(14) 継続児保護者会(15・17) 誕生日会(28)
5月	親子遠足(13)
6月	小児神経科医師の相談(2) 保護者会(25) 親子焼きそば会(25)
7月	個人面談&個別指導(13~24) 誕生日会(24) 夏期保育開始(27) リトミック(29)
8月	夏休み(13~17) 誕生日会(21) 入園説明会(24) 家庭訪問(28)
9月	誕生日会(2) 夏期保育終了(4) *バザー(5) 母子通園(9~25) 保護者会(14・15) 進路面談(25・29) リトミック(30)
10月	親子小遠足(5) 進路面談(6) 保護者会(29・30)
11月	*運動会(3) 卒園児の保護者を囲んで(4) 入園説明会(11) 保護者リース作り(16・19)

12月	市バス親子遠足(2) 個人面談&個別指導(3~10) 誕生日会(14・24) 家庭訪問(22) 小遠足(16・22) 冬休み(28~1/3)
1月	保育開始(4) 入園説明会(6) 誕生日会(8・26) 保護者会(14・15) 家庭訪問(18) ホットケーキ作り(18~20)
2月	豆まき(1~3) お別れ遠足(24) 小児神経科医師の相談(25)
3月	お別れ遠足(1) 個人面談&個別指導(8~17) 保護者会(17・22) リトミック(23) 春休み(26~31)

7. 防災訓練

災害時の利用者の安全を図るため、防災計画に基づき、月1回の防災訓練を行う。

・・・5/15・6/24・7/7・8/3・9/4・10/13・11/18・12/18・1/19・2/22・3/17

8. 施設外の方との関係

・清瀬特別支援学校との連携・・・5/22

・東大和療育センター小児神経科のDr.(嘱託医)診察・・・6/2・2/25

・東村山市子ども育成課(情報交換会)・・・11/16

・東村山市幼児相談室(情報交換会・ケース会議・見学者の紹介)との
情報交換会・・・4/28・2/10

・東村山市心身障害児ケア担当者連絡会議(情報交換会・勉強会・交流実習・施設見学)

・交流実習

あゆみの家・市内保育園・教育委員会教育支援課からポップへ

・・・10/27・10/28・11/5・11/6・11/17・11/19

・東村山手をつなぐ親の会(バザー・運動会)・・・9/5・11/3

・切れ目のない相談・支援体制整備「連携ネットワーク検討部会」・・・5/20・7/17・3/2

・教育支援課教育相談係菅谷氏との面談・・・5/28

・子ども育成課課長高柳氏との面談・・・6/26

・教育委員会教育部部長曾我氏・教育部次長(指導室長兼務)青木氏との面談・・・9/14

・地域との交流

山鳩会ホームページ・フェイスブックにより情報交換

9. 実習生の受け入れ

対 象	実習内容	期 間	人 数
青葉さくら保育園・あゆみの家 久米川保育園・むさしの保育園・教育支援 課	交流実習	6日	6名
中学生(第四中学校2年生)	体験学習	10/22・23	1名

10. 親の会との連携

①バザー・運動会に参加した。

②親の会総会資料及び親の会便りを配布して活動内容を知ってもらい、在園中の入会について説明した。

11. 職員研修

(1)視野を広め、子どもや社会への理解を深める。

(2)経営の健全化や運営の適正化の推進、サービス内容の質の向上を図る。

研修名	実施日	主催	場所	参加者
救命救急講習会	5/22	山鳩会	あきつの園	柚山・中岡・常盤・石井
熱中症予防対策研修会	5/26	東村山市教育委員会 教育部学務課保険給食係	東村山市役所 いきいきプラザ3階 マルチメディアホール	柚山芳江
統合保育の中で3年間過ごした 対人関係に特徴のある一園児の 事例 「まんとみ幼稚園」の事例	8/25	東村山市 ケア担当者連絡会	東村山市役所 いきいきプラザ4階 健康長寿のまちづくり 推進室・多目的講座室	柚山・中岡・常盤
指定障害児通所支援事業所 説明会	11/25	東京都福祉保健局	東京都庁第一本庁舎 5階大会議場	柚山芳江
障害者の人権について ～障害者差別解消法って？～ だれもが安心して暮らせる 地域社会の実現に向けて	12/22	東村山市市民部 市民相談・交流課	東村山市民センター 第1～3会議室	常盤愛子
保育現場での相談事例研修会	3/23	東村山市教育委員会 教育支援課	東村山市役所 いきいきプラザ4階 教育委員会室	柚山 芳江

12. 会議

職員会議	週1回 水曜日又は金曜日
評価会議	各学期末に6～8日
ケース会議	幼児相談室・スーパーバイザーとのケース会議 年8回
研修報告会	職員会議にて
ケア担当者連絡会議	子ども育成課・幼児相談室・市内保育園・あゆみの家・ポッポによるケース会議や勉強会・・・ 年8回 ポッポ・・・方針・ケースなどについての発表 (1月12日)
子ども育成課保育係との打ち合わせ	障害児わく保育園入園にむけて情報交換会 (11月16日)
執行会議	月1回

部会	研修部会・・・人権PT 月1回 リスクPT 月1回 広報部会・・・月1回
----	--

13. 苦情解決・個人情報保護・権利擁護・セクシャルハラスメント防止

- ①子どもの権利を守る。
- ②苦情解決については、第三者委員を設置し対応に当たる。

苦情解決

	氏名
責任者	柚山 芳江
担当者	常盤 愛子
第三者委員	江幡 房江

セクシャルハラスメント

	氏名
責任者	柚山 芳江
担当者(男性)	押金 稔
担当者(女性)	常盤 愛子

・苦情解決・・・0件

14. 人事管理

・目標管理

初回面接・・・4/15・4/22

中間面接・・・9/30・10/7

期末面接・・・3/22・3/24

・振り返りシート

期末面接・・・3/22・3・24

添付資料：『27年度のポッポの子ども』と『保護者会（3月）での母親の感想』

1. 男児（年長・3年目・28年度清瀬特別支援学校）

愛の手帳3度。知的な遅れ+広汎性発達障害。会話ができる。排泄は小のみ自立。

気持ちの不安定さから職員や他児に手が出てしまう。自分の気持ちをコントロールすることが難しい。→元々ある自閉的な部分+家族状況の複雑さから来るもの。

↳ 母子家庭、小学生の兄から手を出されている。
↳ ADHD と診断されている。

医者から ADHD もあるかも…と言われた。しかし、繊細な子どもなので情緒面から来るものが大きいと思い、ポッポでは本児の気持ちを受け止め寄り添う事を大切に。また、気持ちの揺れから手が出てしまうので、一对一の保育は3年間通じて必要とした。週1回1時間の個別指導を行った。

『母親の感想』

あつという間の3年間だった。幼児相談室に進められたからポッポに入ったが、最後の1年で急成長し、入って正解だった。祖母は「週3日、10時から2時までという短い時間で何が変わるの?」と言ったが、密度が濃い接し方をしてもらったと思う。成長はそれぞれだと思うけど、悩まず日々成長することを信じていきたい。私の目標は低く、いずれ大人になったら自分のことが自分でできればいいと思っていた。言葉をしゃべるようになってほしいと思わなかったけど、しゃべるようになった。

2. 男児（年長・3年目・28年度清瀬特別支援学校）

愛の手帳2度。知的な遅れ+広汎性発達障害。多動。二語文中心、発音不明瞭。トイレトレーニングは難しく、担当者の世話を拒否する。不安が強く、新しい場に行くことがわかると熱を出した。

入園当初は、勝手に部屋から飛び出すことがよくあった。担当者がそばに行くと動きが速くなり逃げて行った。知らない人に対しては、愛想よく振舞っていたが、相手が近づいてくると顔が強張り緊張した。担当者ですら数十メートル離れなければならなかった。

2年目の終わりにようやく担当者に抱っこされるようになり、3年目には担当者以外の保育者でも関わられるようになった。3年目の3学期漸く手を繋いで歩けるようになり、車が来ると避けるようになった。3年目の2学期まで一对一での担当が必要だった。6月中旬まで個別指導を9回行ったが、集団保育と違うことに不安を持ち、集団保育においても精神的に不安定な面が出てきたので中止した。

『母親の感想』

言葉が伸びた。入園した頃は、「パパ」「ママ」と自分なりの言葉を2, 3語だけだった。今は三語文まで話せるようになった。人との関わり方が自然になった。色々できるようになり、安心してポッポで過ごせるようになっていったのも、気持ちを読みとりほどよい距離をとって見守ってもらったからだと思う。買い物に行くと、パーッと走っていたが、今では母親・祖父・祖母と手を繋いで歩けるようになった。

私自身も、ポッポを通して同じような悩みを持ち色々話することができる友だちができた。

3. 女児（年長・3年目・28年度清瀬特別支援学校）

胎便性腹膜炎で出生当日に手術。知的な遅れ。

不安や緊張が強い。気持ちの揺れから保育者や他児に手が出てしまう。

→ 家庭状況、環境・人の変化、不安などから来る揺れ。

→ お母さんの目は本児より兄に向いている。本児とお母さんが向き合う時間がなく、手をかけてもらえない。

気持ちがいっぱいになり、
手が出てしまう。

→ そういところからつらい事・不安なことがあっても上手に人に頼れず、一人で頑張ってしまう。甘えられない。

ありのままの本児を受け止め、本児の気持ちに寄り添いとことん付き合っていく必要がある為、
一対一を必要としている。

4. 男児（年長・3年目・28年度清瀬特別支援学校）

愛の手帳4度。知的な遅れ+広汎性発達障害。三、四語文、会話ができる。紙パンツに排尿することはないが、不安で布パンツをはいて来ることができない。

入園当初は、誰にでも愛想よく大人は誰でもよかった。3年間、部屋で椅子に座って弁当を食べたことは数えるほどしかない。母親の精神状態が大きく影響してきた。3年目は、母親が進路で悩み、その不安が子どもに伝わって揺れに揺れた。担当者がいないと不安は増大した。刺激に対して過敏で部屋に入れないことがほとんどで、3年間一対一が必要だった。

2月中旬、母親の支援校への決心が固まり、本児は落ち着いてきた。

『母親の感想』

あつという間の3年間だった。まさか自分のところにこういう子が生まれるとは思わなかった。こういう子の心理の本に興味があつて読んでいた。私が考えていた方針のところがあつてよかった。これもある意味運命かな。

彼にとっていい3年間が送れたので、ポッポで育ててもらったことを大切にしながら小学校生活につなげていきたい。ここまで一人の子に向き合ってもらえるところは他にはない。彼のような子にとって、大人が向き合ってくれることが大事なことを考えると、ポッポに入れて良かったと思う。この時期にかけがえのない時間と経験が得られたと思う。人件費のことを考えても奇跡！

彼が抱っこやおんぶをせがむままにやってきたが、去年から言わなくなった。

5. 男児（年中・3年目・28年度ポッポ）

愛の手帳4度だったが、3月に手帳の見直しをしたところ2度だった。知的な遅れ+広汎性発達障害。言葉はまだない。排泄は自立している。感情の起伏が激しく、一旦調子を崩すとなかなか戻すことは難しかった。

兄も、知的な遅れ+広汎性発達障害。2年間兄弟でポッポに来ていた。母親は肉体的にも精神的にも大変で、ポッポができるだけ力になれるよう配慮してきた。ポッポと一時保育を利用し、なんとか母親を支えることができた。3年目の3学期は、部屋で遊ぶことが少なく散歩に出たがるものがほとんどで、すぐに添えないとパニックのような泣き、物への暴力や多動で表現をしてくる。未だに単独行動のため、一対一でしか見ることができない。

『母親の感想』

私は、この1年とにかく休憩しようと思った。これまで二人の子どもに振り回されてきたが、今年度は子育ての疲れで漢方薬や栄養ドリンク等飲むことが少なくなった。そして、私自身わが子の個性に慣れたと思う。体力以上にメンタルな面での疲れが多かったので、周りの意見に振り回されないようクールダウンを心がけた。とにかく手抜きすることを考えた。手抜きしていると、風邪を引くことも少なくなった。

対人関係が引き続き伸びてくれるといい。そのベースは私がこの子にどう関わるかだと思う。就学前の1年間を楽しんで過ごしたい。

6. 男児（年中・2年目・28年度ポッポ）

愛の手帳4度。知的な遅れ＋広汎性発達障害。

大きな音・人の多さが苦手。友だちに対し、“怖い”という気持ちも大きい。そのため部屋に入る事が少ない。無理に部屋へ誘うと表情が硬くなり、耳塞ぎをして自由に過ごせなくなる。よって、一対一の対応が必要。週1回1時間の個別指導を行った。

『母親の感想』

入園した頃は私に背を向け、車に乗る時も泣いていた。担当の先生との関係がついて、最近はおもとの関係ができて入園してすごく変わった。ポッポで友だちと手を繋いだ話を聞いていたけど、目の前でそれを見て嬉しかった。また、私と手を繋いで歩けるようになった。公共の乗り物を使えるようになった。まだ、解説書を読むなどこだわりは強いけど・・・

7. 男児（年中・2年目・28年度ポッポ）

愛の手帳3度。知的な遅れ＋広汎性発達障害。一語文。排尿感覚がようやく分かるようになってきた頃、一度布パンツをぬらすとパニックを起こし、それ以後布パンツをはくことができなくなった。

手を出した子を怖がり、部屋に入れなくなりあきつ園の玄関で過ごしていた。個別指導をすることにより、少しずつ怖さが減ってきた。1年目・2年目共に単独行動、一対一で対応している。週1回1時間の個別指導を行った。

『母親の感想』

「ママ！」と、言葉で伝えられるようになったことがうれしい。1年前は何が問題なのかよくわからなかった。今では、ひらがなやカタカナが読めるようになり自信がついた。できないことも多いし、動きも激しい。信号も止まらない。ポッポでは、猫をかぶっているのではないかと思う。

8. 女児（年中・2年目・28年度ポッポ）

愛の手帳3度。知的な遅れ＋広汎性発達障害。排泄は小のみ自立。

不安が強い。今年度は他児に手を出されてしまった事がきっかけで、子どもに対しての不信感・不安感が強くなる。登園拒否もあった。登園できても担当者へのしがみつきの強さも強く、気持ちが落ち着かない。部屋の中に入れないうえ、ほとんどが単独行動。本児の母親も不安が強く、気持ちの揺れがある。母親の気持ちの揺れに影響され、本児の気持ちも揺れる。

3学期、気が合う子と遊んだり手を繋ぐようになった。

『母親の感想』

1年目はどうなるんだろうと思った。言葉もしゃべらないし・・・でもポッポは楽しいみたい、大人がついていて安心なんだろうな・・・と思った。ハードルを低くしていたけど、葛藤していた。

2年目は、私が休まずにいることがいいことではない、明らかな手抜きをしよう、思いつめないようにしようと思った。娘は冬休みに急に伸びた。(気負わないようにしよう)と子どもに見せていないつもりでも、そしていろいろと外部から何か言われる度に揺れるけど、着地点を見つけられた。二人でいると通じ合っているし、(ふつうに生活することって大事?)と思った。不時着することもあるけど、根こそぎ持っていかれることはなかった。私自身体調が良くなった。そうすると、娘が正月明けからしゃべるようになった。私の気持ちが伝わって敏感に反応している。娘を無理に変えようとせず3年目もつき合っていきたいと思う。

9. 男児 (年中・2年目・28年度ポッポ)

愛の手帳3度。知的な遅れ+広汎性発達障害。言葉はない。紙パンツ使用。感覚レベルの遊び。手先が器用で高いところに上るのが好き。目を離すと、不安定な物でも掴んで上ろうとするので危険。いっときも目が離せないため一対一の対応。食欲にムラがあり、全く食べない日も多い。最近、思い通りにならないと、噛んだり引っ掻いたりする。妹を噛むようになったため、家でも目が離せない。

ポッポではまだ怪我をしたことはないが、家庭では冷蔵庫など家具の一番上まで上がり、ツッパリ棒を落として妹が怪我したり、飛び降りた瞬間に怪我をしていた。最近花粉症がひどく菓を飲まないため睡眠不足が続いている。そのためイライラして動きが多く、保育者を引っ掻く・爪を立てる・髪を引っ張る・自分の手の甲を噛む等が増えている。

春休みからメラトニンを服用し、イライラしなくなった。

『母親の感想』

表情が豊かになり、喜怒哀楽が出せるようになり、彼なりに成長していると思う。花粉症のせいか、イライラして下の子の髪を引っ張ったり、私の腕をつねったり噛んだりする。言い方を変えてもダメで、止めるとギャン泣きする。下の子に当たり散らす。夜、服を脱ごうとする。パニックみたい。母親を押しつけて妹の髪を引っ張る。どうしようもないので父親が止めて、「ダメでしょ!」と言うとやめた。

10. 男児 (年少・2年目・28年度ポッポ)

愛の手帳2度。先天性の染色体異常+てんかん+知的な遅れ。

↳ 診断があり、母親は“手をかけても意味がない” “変わっていかない事がきつい”と本児に手をかける事を諦めている。また4人姉弟の末っ子なので、余計に手をかけてもらいづらい。よって、ポッポで可愛がり、また、成長がゆっくりなので本児に合わせた保育が必要。

3学期の個人面談で、母親が本児を育てることに前向きになったことを感じた。これは、本児の成長が母親の気持ちを動かしたと思っている。

1 1. 男児（年中・1年目・28年度ポッポ）

知的な遅れ＋広汎性発達障害。母親はアスペルガー。父親と本児の兄の雰囲気は独特で、偏りのある家庭で育っている。人は好きだが怖がりのため、距離のとり方がかなり難しい。困ったことがあれば人を求めてもいいということ、求められたらそれに応じてあげる、守られる体験…当たり前の対応を家庭の分まで積み重ねていける支援をしていかなければいけないと感じている。

『母親の感想』

子どもが進んでポッポに行ったので心配しなかった。母親が出かける用意をしている間に迎いの車に乗るので、相当気に入ってるのだと思う。お気に入りの先生にいろいろ話しているみたい。家では、身振り手振りで教えてくれる。兄の教材（ベネッセ）をいたずらしようとする。食事は、好きなものを集中して座って食べるようになった。兄が反抗期でどうしようかと思う。

1 2. 女児（年中・1年目・28年度ポッポ）

知的な遅れが大きい。年少は幼稚園に通っていたが集団に馴染めずポッポへ。人、場所の理解力が弱く、入園当初は幼稚園と混乱してしまい、見ず知らずの園の集団に出会うとついて行こうとすることが多々あった。また、室内に入ることが苦手なため、車で過ごすことが多い。無理に連れて行こうとすると、泣きわめき続ける。こだわり、意思も強い。無理強いせず、今の本児でいいと認め、ほとんどの時間を車で過ごした。1・2学期は大きな変化は感じられなかったが、3学期から大人の誘いかけで部屋に入れるようになってきた。色々な場面で、意思の疎通が出来るようになってきたが、まだまだ個別での働きかけが必要だと感じている。

『母親の感想』

まだ、車や信号が危険ということがわかっていない。最近バイクや救急車が来ると怖がって抱きついてくる。前は誰かと遊ぶことはなかったけど、今は人と遊ぶことを楽しんでいる。家でも兄弟の友だちが来ていると遊ぶようになった。

1 3. 男児（2歳児・1年目・28年度ポッポ）

知的な遅れ＋広汎性発達障害。自分のテリトリーに入って来た子に対し掴みかかる、噛む、叩く、おもちゃを投げつける。部屋遊びのスペースは、部屋全体の1/4～1/3の広さを確保してあげなければいけないのが現状。本児の弟にも手が出るため、家でも目が離せない。

『母親の感想』

ポッポに入園して、弟が生まれて環境が大きく変わった。最近落ち着いてきた。3学期は弟がそばにいて、トゲトゲしていた。今は私が弟にかかりっきりでなくなり、彼に関われるようになった。来年度は他の人に入ってほしくないとかなくなるとういふ。

1 4. 男児（2歳児・1年目・私立幼稚園入園。28年度ポッポの個別指導と相談を継続）

未熟児。人関係は悪くないが、警戒心が強く、自分の気持ちをなかなか出すことが出来ない。母親が本児の気持ちを汲むことができないため、母子関係において本児の気持ちが一方通行になっている。受け止めてもらえることの喜びや達成感などを体験するために一対一の対応を必要としている。

『母親の感想』

一年間でよく喋るようになった。ポッポではおとなしいが、家では暴れて大変。あれが幼稚園で出たらどうなるんだろう、落ち着きのなさが心配。

15. 女兒（年少・1年目・28年度ポッポ）

幼稚園に通っていたが、こだわり行動・泣きがおさまらなかったため、9月から幼稚園に在籍のままポッポに入園する。人を人としてではなく、物として見ている。母親さえもどういう存在なのかよくわかっていない。言葉は喋れるので本児がどう捉えているのかがよくわかる。

不安が強い、体験不足、怖がり。不安を感じると物にしがみつ傾向がある。しかし物で人の心は満たされる訳ではないので、一対一で毎回同じ保育者が担当に付き、人と過ごすことの心地よさを体感できるよう配慮を重ねている。

少しずつだが、職員のしているエプロンで人を判断していた本児が、担当者の事は人として理解し始め後追いをするようになり、家でも母親の後追いを3歳で漸くするようになり、少しずつ変わり始めている。また、母親は11月末で幼稚園を辞める決心をし、今の本児の成長と向き合いだした。本児に加え、母親の支援もとても重要になるケース。

『母親の感想』

9月入園した頃は、朝行くのが嫌なのかな・・・と思ったけど、今は担当の先生との信頼関係が築けていると思う。今日も自分から先生の方へ行っった。娘がポッポに行くとホッとするけど、泣いているかなあと心配している。連絡ノートを読んで、他の子と遊ぶことはないけど気にしてるんだと思った。少しずつ成長していくといいなあと思う。

最後に

以上が27年度のポッポの子どもたちと母親の感想である。

継続の子どもが多いこともあり、ポッポの方針を理解して頂いていると思う。幼児相談室の先生やポッポの保育者・かかりつけのお医者さんとの信頼関係、母親同士の関わりの中で母親が安心を溜めていき、子育てへの姿勢がいい方向に向き始めていることがわかる。それと同時に子どもにも変化が見られる。母親が変わるから子どもが変わるのか、子どもが変わるから母親が変わるのか・・・いい具合に関係が回り始める。ポッポはその入り口で親子がひと休みしたり、背中をちょっとだけ押す手伝いができるといいと思う。

昭和49年、親の希望から、厚生省の委託事業として起ち上げられた幼児相談室は、東村山市の貴重な社会資源だった。「誰でも、どんな内容でも行ける。子どもが持っている力を発揮できるように、親が育児に自信が持てるように」という目的で創られたと聞いた。平成27年度を持って幕を閉じられたことは、本当に残念である。どれだけ多くの親子に生きる勇気と希望を与えて下さっただろう。感謝の気持ちでいっぱいである。

新しい子ども相談室が、幼児相談室のように親子に寄り添う相談室を創られることを心から願ってやまない。